

研究状況報告

元吉忠寛

ここ数年、自然災害に対する人々の認知や行動に関する研究を継続的に行っています。今年は特に災害が頻発したので、防災研究者のひとりとして、非常に多くのことを考えさせられました。以前は事情により水害に特化して調査研究を行っていましたが、最近の水害に限定せず、地震や火災などを含めて、総合防災的視点に基づいた研究を目指しています。この一年を振り返ると、前半は、ひとつの区切りとして、これまでの成果をまとめることに、後半は、いくつかの新しい研究に着手するための準備に、それぞれ多くの時間を費やしました。種はたくさんまいたと思いますので、いずれも中途半端で終わることなく豊かな実が収穫できるよう努力していきたいと思っています。

1. 論文

元吉忠寛・高尾堅司・池田三郎 2004 地域防災活動への参加意図を規定する要因 —水害被災地域における検討— 心理学研究, 75, 72-77.

元吉忠寛・高尾堅司・池田三郎 2004 水害リスクの受容に影響を及ぼす要因 社会心理学研究, 20, 58-67.

照本清峰・元吉忠寛・福囿輝旗・佐藤照子・池田三郎 2004 治水整備と洪水災害が住民の意識に及ぼす影響 水工学論文集, 48, 397-402.

元吉忠寛 2004 災害に関する心理学的研究の展望 —防災行動の規定因を中心として— 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(心理発達科学), 51. (印刷中)

Takao, K., Motoyoshi, T., Sato, T., Fukuzono, T., Seo, K., & Ikeda, S. 2005 Factors determining residents' preparedness for floods in

modern megalopolises: The case of the Tokai Flood Disaster in Japan. *Journal of Risk Research*, 8. (in press)

2. 国際学会

Takao, K., Motoyoshi, T., Fukuzono, T., & Sato, T. 2004 Determining factors preparedness against natural disasters: Deference of flood and earthquake. The 28th International Congress of Psychology, Beijing, China.

3. 国内学会

元吉忠寛・申 紅仙・中根和郎・福囿輝旗 2004 水害リスクに対する認知と受容意識 —福岡県福岡市の事例— 日本グループ・ダイナミックス学会第51回大会発表論文集, 238-239.

元吉忠寛・申 紅仙・中根和郎・福囿輝旗 2004 住民の防災対策行動の規定因の検討 —福岡県福岡市を事例として— 日本社会心理学会第45回発表論文集, 226-227.

松井 豊・新井洋輔・水田恵三・西道 実・清水 裕・田中 優・福岡欣治・元吉忠寛・堀 洋元 2004 広域災害における避難所運営ゲームの開発(1) 日本グループ・ダイナミックス学会第51回大会発表論文集, 62-63.

4. その他

元吉忠寛 2004 住民の水害リスクの認知と水害リスク受容意識 特定プロジェクト「災害に強い社会システムに関する実証的研究」中間報告書, 18-25.

研究状況報告

発達心理精神科学教育研究センター

金子一史

昨年度に引き続き、一般青年の被害妄想的観念に関する研究、妊産婦のメンタルヘルスに関する研究などを進めています。以下に、2004年度の研究状況を報告します。

1. 論文および著書

金子一史・本城秀次・村瀬聡美・野邑健二 2004 母親から子どもへの愛着形成—心理社会的検討— 小児科臨床, 57, 1273-1279.

金子一史・本城秀次 2004 周産期精神医学における乳児の役割 臨床精神医学, 33, 997-1002.

金子一史 2004 妊婦および褥婦のメンタルヘルス 後藤節子(編) テキスト母性看護Ⅱ 名古屋大学出版会(印刷中)

Yoshizumi Takahiro., Murase Satomi., Honjo Shuji., Kaneko Hitoshi., & Murakami Takashi, 2004 Hallucinatory Experiences in a Community Sample of Japanese Children. Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry, 43, 1030-1036.

2. 国際学会

Kaneko Hitoshi. 2004 July, Delusional Ideation in a Community Sample of Japanese High School Students. World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies 2004, Kobe, Japan (Symposia).

Kaneko Hitoshi., Shuji Honjo., Ujiie Tastuo., Murase Satomi., Nomura Kenji., Sasaki Yasuko., & Shiori Arai, 2004 August, Maternal Attachment in Japanese Women During Pregnancy and one month after delivery. 16th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions, Berlin, Germany.

Oba Mihoko., Murase Satomi., Murakami Takashi., Takai Jiro., Kaneko Hitoshi., & Honjo Shuji. 2004 August, Parental Attitude, Self-preoccupation, and Various Mood States

Associated with Self-preoccupation Among Japanese Adolescents. 16th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions, Berlin, Germany.

Murase Satomi., Oga Risa., Murakami Takashi., Honjo Shuji., & Kaneko Hitoshi. 2004 August, A Study of Somatic Complaints in a Japanese Clinic Sample. 16th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions, Berlin, Germany.

3. 国内学会

金子一史 2004 周産期のメンタルヘルスと母親から子どもへの愛着 第45回日本児童青年精神医学会総会 学会企画シンポジウム「乳幼児精神医学」シンポジスト

佐々木靖子・瀬地山葉矢・金子一史・本城秀次 2004 妊婦の愛着対象と周産期の抑うつ傾向との関連 日本心理臨床学会第23回大会

岡田香織・本城秀次・金子一史・打瀬聡美 2004 家庭の雰囲気と児童期の子どもの精神的健康との関連について—ストレスモデルの関連から— 第45回日本児童青年精神医学会総会

田中亜子・本城秀次・金子一史・村瀬聡美 2004 青年の自己愛傾向と親の養育態度の関連 第45回日本児童青年精神医学会総会

田中裕子・村瀬聡美・金子一史・本城秀次 2004 過食傾向者の外界へのとらわれについて—自意識と失感情的人格特性の関係から— 第45回日本児童青年精神医学会総会

丸山笑里佳・小林佐知子・雑賀美希子・金子一史・本城秀次・村瀬聡美・佐々木靖子・荒井紫織・野邑健二・中谷奈美子・瀬地山葉矢・石原美智恵・板倉敦夫 2004 妊娠期のうつ病におけるEPDSの感度と特異度についての分析 第13回日本乳幼児医学・心理学会

荻野聡子・伊藤里実・梅村祐子・北川朋子・山口栄・本

心理発達科学専攻教官の研究状況報告

城秀次・氏家達夫・村瀬聡美・金子一史・荒井紫織・
佐々木靖子・石原美智恵・板倉敦夫・野邑健二
2004 妊娠期の妻を持つ夫の抑うつと愛着 第45回
日本児童青年精神医学会総会

4. その他
児童青年精神医学会 「児童青年精神医学とその近接領
域」 編集委員 2004年～
東海相談学会 理事および事務局 2004年～